

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛媛県立新居浜南高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他(例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒792-0836
愛媛県新居浜市篠場町1番32号

E-mail niish-ad@esnet.ed.jp
Website https://niihamaminami-h.esnet.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 101名 女子 256名 合計 357名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要(800字程度+活動内容を表す写真数枚)

当校は、「輝け個性、社会のために～自ら学ぶ力を育み、地域を支える人づくり～」を学校理念として、ESDを持続発展可能な地域づくりと捉え、ESDの実践を通して、持続可能な開発に関する価値観、体系的な思考力、コミュニケーション能力の育成を目標とした。

具体的には、文化を基礎に、社会・環境・経済の3つを柱に、①世界遺産や地域の文化財等に係る学習活動、②環境に係る学習活動、③国際理解に係る学習活動、④貧困に関わる学習活動を行った。

①世界遺産や地域の文化財等に係る活動

四国屈指の工業都市である新居浜の基礎づくりに大きく貢献した別子銅山。

その別子銅山の近代化産業遺産を教育資源と捉え、小中学校への出前授業、生涯学習や地域イベントでの講師、観光ボランティアガイド、ガイドブックの制作など、さまざまな情報発信活動を行った。

また、岡山県立矢掛高等学校(ユネスコスクール)、岡山県吉岡銅山、島根県石見銀山を訪れ、それぞれの地域が誇る文化財や世界文化遺産について学びを広げた。

②環境に係る学活動

別子銅山の銅山峰に自生するツガザクラ（愛媛県天然記念物・絶滅危惧種）の保護活動を愛媛県山岳協会・憧山会と協働で、定点観測、保護柵の補修や整備などを行った。また、①の活動時において、ツガザクラの希少性や保護の大切さについて呼びかけた。

③国際理解に係る学習

愛媛大学の留学生が参加した「別子銅山モニターツアー」（新居浜市主催）や地域に在住の外国人とのイベント「グローバルパーティー」（同楽しむ会）のスタッフとして、観光ボランティアガイドを英語で務めるなど、別子銅山の魅力をアピールするとともに、日頃の学習成果を発揮できる絶好の場ともなった。

④貧困に関わる活動

地域のボランティア団体が主催する「にいはま子ども食堂」について3年次生の総合的な学習の時間「ライフスタディⅡ（課題研究）」のテーマとして取り組んだ。また、生徒会のユネスコ委員会が中心となり、ボランティアとして参加するなど、毎月1回の活動に年間を通じて55名関わった。

地域の現状を肌で学ぶとともに、高校生が地域へ関わることの大切さを学ぶことができた。また、地域からの期待や大きな信頼を得た。



① 中学校への出前授業の写真



② ツガザクラ保護活動の写真



③ 観光ボランティアガイドの写真



④ にいはま子ども食堂の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(シビックプライド(郷土への愛着や誇り)の育成)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(ボランティア活動)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

【書籍】 「住友別子鉱山史」(住友金属鉱山 1991 年発行) 「別子銅山近代化産業遺産八十八か所ガイドブック」 (新居浜南高校情報科学部 2002 年発行)
【ウェブサイト】 「マインからマインドへ」 http://nmh.hearts.ne.jp/MTM/ (新居浜南高校情報科学部・ユネスコ部ウェブサイト)
【パンフレット】 「別子銅山記念館案内」(別子銅山記念館発行) 「広瀬歴史記念館」(新居浜市広瀬歴史記念館)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

1年次生では、総合「産業社会と人間」において、2・3年次生では、総合的な学習の時間「ライフスタディⅠ」「ライフスタディⅡ（課題研究）」を中心にESD活動を位置付けている。

具体的には、行政や地元でご活躍の社会人を講師として招いた講演会を行ったり、地域団体との協働でフィールドワークをお粉照っている。

また、新年度には「地域共創」系列が新設スタートすることとなり、新たな指導方法の工夫についての研究も行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

公務分掌の組織において総合学科課がESDを中心に担っている。

定期的にESD活動の呼びかけを行ったり、鳴門教育大学からは近森憲助特命教授を招へいし、教職員研修などを開催した。

また、「百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会」を愛媛県東予地方局・新居浜市・愛媛県総合科学博物館・地元企業・新居浜ユネスコ協会等を委員として組織し、学校と地域が協働で取り組む体制作りも確立した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部的には生徒・保護者・教職員、外部的には小中学校出の出前授業、学校評議員、百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会などからアンケートや感想、口頭などでの評価を行った。

それによって明らかになった成果は、生徒が学習活動・部活動両目において充実した学校生活を送れていること、地域からの学校の信頼度や期待の向上について高評価をいただいた。

課題は、得た成果を持続発展的に継続していくことである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

「3. 活動内容」で述べたが、特に8月に新居浜市教育委員会主催による「平成29年度ESD講演会」では、市内教職員580名が参加する中で本校の取り組みについて貴重な発表の機会をいただいた。

新居浜市内教職員がESDの取り組みを通して、学校や生徒が変容して行く成果を認識し、その重要性を共有することができた。

そして、12月の新居浜市教育委員会による「ESDフェスティバル」では、小中の取り組みに高校が加わる歴史的なイベントとなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

愛媛県東予地方局、愛媛県総合科学博物館、新居浜市、新居浜市議会、住友金属鉱山別子事業所、東予信用金庫、別子銅山記念館、新居浜ユネスコ協会、新居浜商工会議所、新居浜青年会議所、新居浜まちおこし委員会、憧山会、えんとつ山倶楽部、愛媛新聞社新居浜支社、ハートネットワーク、愛媛大学、鳴門教育大学、東京大学、四国地方ESD活動支援センター、ESDコンソーシアム(新居浜市教育委員会)等との協働・交流・ネットワーク形成を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

【国内】

新居浜市内の全小中学校(27校)においては、出前授業やフィールドワーク等で交流・ネットワーク形成を行った。その中でも特に惣開小学校とはサステイナブルスクールとしての児童・生徒間交流も行った。

愛媛県立新居浜東高等学校とは、「グローバルパーティー」におけるイベントでの交流を行った。

岡山県立矢掛高等学校とは、矢高校での生徒同士の交流学習や本校への教員の視察交流も行った。

第9回ユネスコスクール全国大会へ参加し、多くの実践者との交流が図られた。

サステイナブルスクール研修へ参加し、多くの実践者との交流が図られた。

【国外】

交流は無かった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域において、特に次の2つについて貴重な活動の機会を得た。

- ・新居浜市議会フォーラムで高校生と市議会議員が初の意見交換
 - ・新居浜市観光振興計画策定委員会において高校生が初の委員委嘱
- 全国・県下的にも、特に次の4つの表彰等をいただいた。
- ・文部科学大臣優秀教職員表彰（教職員組織）
 - ・「未来をつくる若者オブ・ザ・イヤー」表彰（内閣府特命担当大臣表彰）
 - ・「えひめ地域づくりアワード・ユース2017」（初代最優秀賞）
公益財団法人えひめ地域政策研究センター主催
 - ・ESD奨励賞
新居浜ユネスコ協会・東予信用金庫・新居浜市教育委員会主催

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

【内部】

- ・ホールスクールの手法を用いて、ESDの観点に立った学校運営の計画や実践
- ・「地域共創」系列実施を向かえ、シビックプライドを磨き、語り継ぐ人材育成のための新授業カリキュラムを研究・実践
- ・生徒会・ユネスコ委員会の活動の充実
- ・ESDパスポートのさらなる活用
- ・「百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会」の実施
- ・コミュニティースクール、オープンスクールとしての研究を行い、先進校への視察研修
- ・別子銅山の産業遺産を紹介したガイドブックの作成（海外旅行者のために英訳を付加）し、観光ボランティアガイド（外国語を含む）の実践による活用と検証

【外部】

- ・小・中学校および公民館との連携強化を図るため、出前授業やフィールドワークの実施
- ・市民対象の学習会の実施
- ・愛媛県や新居浜市のイベント企画への参画と協働
- ・愛媛県主催「TOYO歴史文化資源ガイド養成講座」や新居浜市主催「別子銅山創造塾」に参加し、ツアーガイドの実際を学び、未来の語り部としての教養を修得
- ・新居浜市や観光協会、住友企業等との連携による別子銅山の産業遺産を巡るツアーを企画・運営
- ・「明治日本の産業革命遺産」（長崎）への現地視察研修